

歴史民俗資料館だより

令和8年2月号 如月 仙台市歴史民俗資料館



〒983-0842 仙台市宮城野区五輪 1-3-7 TEL 022-295-3956 FAX 022-257-6401

「文化財防火デー」消防訓練を実施

当館の建物である「旧歩兵第四連隊兵舎」は、明治7年（1874）9月に完成したとみられ、宮城県最古の洋風木造建築として令和5年3月に宮城県有形文化財に指定されました。

この度、1月26日の「文化財防火デー」にあたり榴岡地区連合町内会様、宮城野一丁目親和会様、五輪町内会様、女性防火クラブ様、宮城野消防団原町分団様、宮城野消防署様、県教委文化財課様、市教委文化財課様に御参加いただいて消防訓練を実施しました。

文化財防火デーは、昭和24年1月26日の早朝、昭和の大修理中であった法隆寺の金堂が火災になったことから制定されたものです。

文化財の火災として記憶に新しいところでは、2019年4月にパリのノートルダム大聖堂で大規模な火災が発生し、同年10月31日には沖縄の首里城が火災で焼失しています。いずれも電気火災ではないかと考えられているそうです。

この度の消防訓練では、榴岡公園東側の林から出火し、強風にあおられて延焼が拡大し、当館に延焼する危険が大きくなったという想定で、通報訓練、避難誘導訓練、重要物品搬出訓練、初期消火訓練を行いました。その後、消防署職員・消防団員によって行われた火災防御訓練を見学しました。

仙台市・宮城県の大切な文化財である「旧歩兵第四連隊兵舎」の建物を、後世に継承するため今後も火災の予防に努めて参ります。



初期消火訓練



町内会の皆様



火災防御訓練

季節展示「ひな祭り」

■令和8年2月14日（土）～3月22日（日）

日の入りの時刻が遅くなり、少しずつ春めいてきたことを感じる今日この頃です。

季節展示「ひな祭り」では、明治時代から昭和30年代にかけてのひな人形を御紹介しています。ぜひ御覧ください。



くらしのかたち 「衣の生活」 化粧・髪型

【化粧】

大家の妻女や職業婦人、若い娘たちは、おしろいや口紅をつけておしゃれにも気を配ったが、一般の主婦や農家の女たちは、ふだんはほとんど化粧もせず、毎日忙しく働くのが常で、顔を洗うだけであったようだ。それでも、ヘチマコロンを自分で作ってつけたとか、外出するときには顔にクリームを塗ったという人もいたが、中には顔を洗う暇さえもないほど忙しかったという人もいる。農家の女たちにとって、おしゃれをしようとする暇も余裕もなかった。

昔は女性は結婚するとお歯黒をつけた。明治に入って禁止されたのだが、泉区根白石では明治半ばまで風習が残り、戦前までお歯黒をつけたおばあさんたちが健在であった。

【髪型】

男の髪は、戦前までほとんど坊主頭か五分刈りで、戦後髪を伸ばすようになった。女の髪型は旧城下の大家の妻女たちと、他の一般の女たち、また、農家の女たちでは、階層差があり、大きな違いが見られる。

役人や医者や商家の妻女などの場合は、毎日髪結が各家をまわり、髪を丸まげに結いあげた。娘は桃割に結い、かぞえ十九歳で十九島田に結った。結いあげた髪には、櫛とかんざしをさし、鹿の子の手絡（てがら）を根元にかけた。若い人は赤色、年配者は水色にした。

商家の妻は、商いで頭を低くするという考えから、髪もまげを低く結うのが普通であったという。学校の先生などは束髪にした。束髪はとかすのも、結うのも大変楽だったようだ。

旧城下町や町の一般の女たちは、自分で簡単に銀杏返しに結った。若林区の七郷地区や泉区の根白石、太白区の秋保町の農家の女たちは、後ろで髪を一つに束ねて結び、渦巻に巻いてピンで数カ所とめるだけか、たけ長というセルロイドのような材質でできた固い型に、毛先からくるくる巻いてピンでとめる程度である。

仙台でのパーマネントの導入は、昭和の初めであったが、町なかでもパーマをかける人は少なく、周辺の地域では戦後になってやっと普及した。初期のパーマは、炭火でコテを焼くコテパーマだったようで、毛をこがしたり、やけどをすることもあったらしい。

(参考文献：仙台市史 特別編6「民俗」)



AIで作成した
「丸まげ」のイラスト



AIで作成した
「十九島田」のイラスト